

学校評価実践報告

(学校経営・運営ビジョンの重点目標に対する質問項目の自己評価)

令和5年度「学校経営・運営ビジョン」に掲げた4つの重点目標に対して質問項目の自己評価を行った。生徒(あなたは)、保護者(お子様は)、教職員(本校は)からのアンケート調査を参考に行ったものである。その結果の概要は以下の通りである。なお、評価については、A、B、Cで表した。

A 十分に達成された B おおむね達成できた C 達成状況は不十分である

1 明るく活気に満ちた学校

質 問 項 目	評 価
1 自分の適性・能力を把握し、よりよい自分になるために前向きな努力をしていますか。	<u>A</u>
2 本校が学習しやすい環境に整備されていると思いますか。	B
3 生命の大切さを認識し、安全に対する意識があると思いますか。	A
4 本校が教育活動の内容を伝えるため、地域や家庭に向けて情報発信をしていると思いますか。	B

- 生徒・保護者は学校において生徒が「よりよい自分になるために前向きな努力をしている」と考えている。昨年度より評価が向上した。生徒・保護者の期待に応えられるよう、教員は魅力ある授業を展開するため、ICT活用など教材研究に努めている。
- 「生命の大切さを認識し、安全に対する意識があると思いますか」の項目では、生徒、保護者とも高い割合で「A」評価をしている。今後も大切な事であることから継続して取り組んでいきたい。
- 学校の情報についてはホームページなどから得ているので、随時学校の様子について更新しながら地域や家庭に向けて情報発信できるよう更に努めていきたい。

2 バランスのとれた人間を育成できる学校

質 問 項 目	評 価
1 学校生活を通して人間性が豊かになったと思いますか。	<u>A</u>
2 基本的な生活習慣が身に付いていますか。	<u>A</u>
3 悩み事や困ったことを相談しやすい環境だと思いませんか。	B
4 授業や行事などを通して異文化を理解しようとしていましたか。	B

- 学校行事や学校生活を通して、人間性が豊かになったと感じている生徒・保護者が8割以上を占めている。グローバル化に伴い異文化に対する理解を深めるとともに意味のある学校行事をこれからも計画し、人格の育成を進めていきたい。
- 基本的な生活習慣の確立のための指導が生徒・保護者・教員とも9割近くが行われていると考えている。

- 教育相談の体制について、生徒および保護者に徐々に浸透してきている。生徒や保護者ともに相談しやすい環境が整っていると感じている。今後も教育相談体制について生徒・保護者に理解していただけるよう努めていきたい。
- 授業や行事を通して、異文化を理解しようとしている生徒が多い。今後は教員側の異文化に対しての指導力や内容の工夫をすすめ更に向上を図っていきたい。

3 夢が実現できる学校

質 問 項 目	評 価
1 進路目標を明確に考えていますか。	B
2 検定試験等に積極的に取り組んでいますか。	A
3 学校からの進路情報に満足していますか、また適切な進路指導が行われていると思いますか。	<u>A</u>
4 学び続ける力の必要性を理解しましたか。	B

- 「B」評価まで含めると、8割の生徒は進路実現に向けて明確な目標を持ち取り組んでいる。しかし、未確定なまま生活している生徒も2割ほどいる。進路実現に向け、家庭との連携を深めていかなければならない。
- 進路指導部・各学年及び全教職員の連携が図られ、生徒の進路実現が図られている。昨年度より評価が向上した。
- 本校生の多くは、進路実現に向けて資格取得など真摯に取り組んでいる。検定試験については、取得するための勉強、課外等に積極的に取り組んでいることがわかった。検定試験の合格者数や部活動の大会結果など、学校経営運営ビジョンの目標に向けて教員は努力している。生徒や保護者は、検定試験等に積極的に一生懸命に取り組んでいるという評価であるので、さらに多くの合格者を出せるよう取り組んでいきたい。
- 生徒、保護者はともに学び続ける力の必要性を理解している。生涯にわたって学習する習慣を身につけさせるよう指導していきたい。

4 学習と部活動が両立できる学校

質 問 項 目	評 価
1 学習と部活動の両立を図っていますか。	A
2 生徒会活動に関する様々な行事や活動に積極的に参加していますか。	B
3 部活動に積極的に参加していますか。	A
4 学校と家庭の間で情報を共有し、連携が取れていると思いますか。	B

- 学習と部活動の両立を図っている生徒とそう思っている保護者の割合が高い傾向にある。学校として部活動と学習の両立を図るため考査前・考査中の部活動の時間を短縮するなどの対策を講じている。今後も文武両道が図れるような環境作りと生徒たちの心身の育成をすすめていく。
- 教員は、生徒会に関する行事や部活動に積極的に取り組むよう指導しているが、生徒、保護者の30%近くがどちらかと言えば参加していないと考えている。生徒会に関する行事や活動に意欲的に参加するよう働きかけていきたい。

- 生徒も教員も熱心に部活動に取り組んでおり、多くの保護者はその状況を理解している。生徒、保護者は生徒が部活動に積極的に参加していると答える割合が高い一方、25%近くの生徒、保護者が参加していないと思っている。学校として部活動の活性化を図るため、部活動への加入や参加を働きかけていきたい。
- 生徒と保護者は、学校と家庭の間で情報が共有され、連携がとれていると考えている。今後もホームページによる情報発信や一斉メールの活用など更に情報共有を図れるよう努めていきたい。

5 商業科の人づくりビジョン

質 問 項 目	評 価
ビジネスマナーが身につきましたか。	B
思いやりの気持ちと気配りが身につきましたか。	<u>A</u>
コミュニケーション能力が身につきましたか。	<u>A</u>
場面に応じ適切な意思疎通する能力が身につきましたか。	B

質 問 項 目	評 価
流通ビジネス科の目標を理解し、それに向かって努力していますか。	<u>A</u>
情報システム科の目標を理解し、それに向かって努力していますか。	A
オフィス会計科の目標を理解し、それに向かって努力していますか。	A

質 問 項 目	評 価
流通ビジネス科の目標取得資格（日商販売士2級）を目指すための取り組みをしていましたか。	<u>A</u>
情報システム科の目標資格取得（ITパスポート）を目指すための取り組みをしていましたか。	B
オフィス会計科の目標資格取得（日商簿記2級）を目指すための取り組みをしていましたか。	A

- 生徒・教員・保護者とも「ビジネスマナー」への関心が高い。生徒・保護者・教員とも「A」「B」の評価が高いが、満足することなく、さらに魅力ある生徒育成を目指し教育活動を進めていく。
- 思いやりの気持ちと気配りが身についたかについては、生徒、保護者ともに「A」「B」合わせて高い評価を得ている。教員は生徒に対して評価は少し低く、さらに身につけてほしいと感じている。
- 「コミュニケーション能力の育成」では生徒・保護者・教員が「A」「B」評価を合わせて8割以上が身についたと考えている。

- 所属学科の目標を理解し、それに向かって努力しているかについては、情報システム科、オフィス会計科、流通ビジネス科のどの学科も「A」「B」合わせると9割を占める。それぞれの学科の意義を理解していることが分かる。これは学校生活の満足に繋がると考えられる。
- どの学科も目標とする高度資格取得には力を入れている。しかし、積極的に取り組もうとする「A」の評価が昨年に比べ向上した。今後はさらに意欲的に高度資格に取り組むよう目的意識をしっかりと指導していきたい。

6 終わりに

『学校経営・運営ビジョン』に基づく『進路の実現』において、今年度は、進学については4年制大学19名、短大7名、専門学校等35名と、ほぼ生徒の希望どおりの進学実績を残すことができた。特に国公立短大1名の他、有名私立大への合格者および高等看護学校の合格者5名を輩出できた。また、就職についても昨年に続きコロナ禍の影響が心配されたが、昨年度より求人も増え、就職する生徒の希望どおりのサポートをすることができた。公務員にも1名合格者を出し、現時点で100%の進路希望を達成している。

信頼される開かれた学校づくりを目指すため、組織体としての学校がその機能をどの程度果たしているかを総合的・客観的に評価して、好ましいと判断できることは継いで進展させ、改善を迫られるものは教職員で一体となって改善する方向に取り組むことが重要である。

商業科の人づくりビジョンの実現に向けて、基礎的・基本的な学習の徹底を図り、一人ひとりの生徒が、ビジネス社会の一員として望ましい能力や態度の育成が図られるよう教員の資質向上および指導力の向上に向けての研修等の充実も図っていきたいと考えている。また、時代にあった教育がなされるようICT機器の活用や一人一台端末の活用など、教員の校内研修の充実を図っている。

各部活動とも今年度は昨年度以上に成績が向上した。全国大会に出場した吹奏楽部、陸上部、フラダンス愛好会、東北大会に出場した水泳部、陸上部、ワープロ部、珠算部などの活躍は本校生の励みとなる結果を残すことができた。

1年生は部活動への全員加入を原則とし、部活動の活性化を目指しているが、一部ではあるがほとんど活動していない生徒もおり、今後検討する必要がある。

地域との連携については、昨年度に続き地元企業やいわき市と共同開発した商品の販売など、広く活動をアピールする機会を持つことができた。

2年生が3日間、就業体験活動を行うインターンシップを実施することができた。生徒には将来の進路選択のためには、働くこと、生きることの尊さを実感させ、勤労観、職業観を醸成する貴重な機会であり実施した成果は大きい。

本校の情報発信としてホームページやNoteの更新に努めた。保護者からはさらに多くの情報発信をとの声もあり、学校行事や校内での活動内容や様子を配信した。今後さらなる情報発信と創意工夫を行っていききたい。「教育相談の充実を図る」については、生徒が悩んでいる、困っているときに、生徒に寄り添いつつでも相談出来る環境整備に努め、生徒を守る支援体制を構築する。本校において「いじめ」のない学校づくりに努めるため、いじめ防止対策委員会を組織し、定期的を開催し問題の早期発見、早期解決に努めている。昨年度からスクールカウンセラーの協力もあり、1年生全員がスクールカウンセラーと面談している。問題の早期発見と、相談しやすい環境整備に大いに役立っている。